

## 【試験場で解答を文に変換する方法】

解答を書く力とは、「頭の中に浮かんだ解答を文に変換する力」と「内容が明確に伝わる文を書く力（文の作成力）」を合わせた総合力のことです<sup>注1)</sup>。ここでは、試験場で頭の中に浮かんだ解答を文に変換する方法について解説します。

注1)：「技術士試験対策・ダウンロードコーナー」の中の『解答を書く力』とは何か?」の資料を参照のこと

### 1. 一度書き出す

試験場で頭の中に浮かんだ解答を文に変換するときのポイントは、頭の中に浮かんだ解答を一度書き出しその内容を目で確認することです<sup>注2)</sup>。目で確認すれば解答の書き忘れも防止できます。

書き出す方法の一つが、問題に対する見出しを書きこの見出しの内容に関することを書き出す方法です。例えば、「(1)・・・3つ課題を抽出し、それぞれの観点を明記したうえで、課題の内容を示せ」のような問題だったら以下のように書き出します。

1. 課題とその内容
・課題1：高齢者の避難の方法， <u>観点</u> ：我が国の高齢社会での避難 <u>内容</u> ：地域で考える，共助
・課題2：×× <u>観点</u> ：×× <u>内容</u> ：××，××，××
・課題3：×× <u>観点</u> ：×× <u>内容</u> ：××，××，××

頭の中に浮かんだ解答を書き出しそれを目で確認することが目的なので書き出す内容は短い文でもキーワードでも何でも構いません。

試験では問題用紙の空きスペースに書き出します。丁寧に書き出す必要はありません。自分がわかればよいので走り書き程度で構いません。

目で確認したら、書き出したことに基づき頭の中に浮かんだ解答を文に変換し、内容が明確に伝わる文でそれを答案用紙に書きます。

注2)：「技術士試験対策・ダウンロードコーナー」の中の「日常業務の中で“文に変換する力”を鍛える」の資料を参照のこと

## 2. 時間のロスと焦り

「早く解答を書かないと時間がなくなる」と考え頭の中に浮かんだ解答を頭の中だけで文に変換して書くと、書いている途中で「この内容ではダメだ」となり一度書いた解答を書き直すことになるかもしれません。このような修正作業は時間のロスです。また、気持ちに焦りが出て解答を考えることにも影響するかもしれません。

以 上